

地域との交流を通して、より多くの人に農業高校を知ってもらうためには、どうすればよいか

東海ブロック三重県立四日市農芸高等学校

生産技術科 3年 市川 航大

食品科学科 3年 前田 花梨

環境造園科 2年 桜沢 耕生

1 はじめに

東海ブロック連盟は愛知県、岐阜県、三重県の3県23校からなる小さなブロックです。しかし、農業クラブ活動は盛んで、各県で意欲的に取り組んでいます。

私たちの四日市農芸高校は昭和4年に三重県立河原田農学校として開校し、創立86年の歴史ある学校です。三重県の北勢地域にある唯一の農業高校で、県内の農業高校の拠点校の一つです。平成15年に学科改変し、現在、生産系と環境系の2つの系と4つの学科、6つのコースに分かれており、2年生になると各系が3つのコースに分かれて学習します。生産系は生産技術コース・販売情報コース・食品科学コース、環境系は造園技術コース・自然環境コース・園芸デザインコースに分かれ、より専門的な授業を受けています。



2 活動紹介

より多くの人に知ってもらうためには、「印象に残る交流をすること」だと思います。

(1) 地域の方々との交流

四日市農芸高校では、地域交流が盛んで、数多くの交流を行っています。



小学生との田植え、水田観察、稲刈り、餅つき

高校生が田植えから観察、収穫し餅つきまでを教え、交流をしています。年間を通して交流することで、小学生は非常に記憶に残り、この体験がきっかけとなり興味を持ち、本校に入学した生徒もいます。



年間を通しての交流



手洗い指導やまんじゅう作り

手の表面の菌の数を測定し、手洗い前と手洗い後の菌の数を比べ手洗いの大切さを教えたり、まんじゅうの作り方を教えて一緒に作ったりしています。



保育園との交流、地域特産のマコモの生育や収穫

地域の伝統野菜のマコモダケを知ってもらうために、収穫や手作り劇を行い、マコモダケの特徴や生育方法をわかりやすく紹介しています。



学校環境デー

地元河原田地区の清掃を行います。この活動は自由参加ですが、毎年全校生徒の8割以上の生徒が参加し、ゴミ拾いを行っています。



(2) 農産物販売

本校で実施している農産物販売は大きく分けて3つあります。

①校内販売所

毎週月曜日と木曜日に販売情報コースの生徒が、校内で生産、加工された農産物を販売しています。開店の30分前には多くの方に並んでいただいています。



②みのりの丘マーケット

本校の販売情報コースが近くのJAの駐車場を借りて接客やレジ打ちを行っています。

毎月第3水曜日に授業時間内に行い、実習で生産した野菜、卵、みそ、草花のほか、農芸ブランド商品の「マコモだけカレー」などを販売しています。



③様々なイベントでの販売

地域の様々なイベントに参加して、販売しています。ただ販売するだけでなく、販売物の説明や何気ない会話も多くあり、地域密着に結びついています。また、三重県産業教育フェアでは県内の職業学科の学校が集まり、学習内容の発表や展示、販売を行っています。県内から集まるのでより多くの人に知ってもらう機会にもなっています。



河原田桜祭り



河原田文化祭



三重県産業教育フェア

文化祭（農芸祭）

一般公開をしており、農業クラブ活動の展示や生産物販売、クッキー作り体験は行っています。今後、この一般公開を生かして意見発表やプロジェクト発表を公開してみてもどうかと考えています。



3 まとめ

この活動の上でさらに知ってもらうために、どのようなことをすれば良いかを考えました。その一つが意見発表やプロジェクト発表を一般公開し、見てもらうことです。多くの人が集まる場所で行うことでより効果的だと思います。また、水田を通じた交流など複数回行うなどして、印象に残る交流をすれば、自然と普段の会話に農業高校の話が増え、それがより知ってもらうことにつながるのではと考えます。

他にも、新聞やメディアを積極的に活用することも一つの手だと思います。メディアを有効に活用することで、地域の方々に活動が伝わり、農芸祭や農産物販売等に足を運んでくれる方の数は年々増えています。農業高校を知り、興味を持ってきているということです。

こういった交流を行う際忘れてはいけないことは、自分たちが意欲的にやっているか、好きでやっているかです。嫌々伝えていても相手には絶対に伝わりません。私たち自身が本気で楽しんで意欲的に接していれば、小学生や保育園児、そして一般の方ももっと興味を持ってくれるはずです。あるいは販売での接客を通して、お客さんに笑顔で対応することができれば、農業高校の印象はもっと良くなるはずです。

よりよい交流になるよう、これからも私たちは頑張っていきます。

